

執筆者紹介(執筆順。*は編者)

*江原 慶(えはら・けい) 序, 第1章, 第2章

東京都立大学リベラルアーツ研究教育院准教授。東京大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。2017年に大分大学経済学部へ赴任し、2022年より現職。著書に『資本主義の市場と恐慌の理論』(日本経済評論社, 2018年), 『マルクス価値論を編みなおす』(桜井書店, 2024年), *Japanese Discourses on the Marxian Theory of Finance* (Palgrave/Macmillan, 2022, 編著) など。

金子 創(かねこ・そう) 第3章

東京都立大学経済経営学部准教授。慶應義塾大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学。修士(経済学)。2017年に大分大学経済学部へ赴任し、2023年より現職。論文に“International Exploitation, Capital Export, and Unequal Exchange” (*The Oxford Handbook of Economic Imperialism*, Oxford University Press, 2022, 共著), 「格差と規範の政治経済学: 分析的マルクス主義の視点から」(『歴史と経済』第64巻第3号, 2022年) など。

阿部 誠(あべ・まこと) 第4章

大分大学名誉教授。慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。1983年に大分大学経済学部へ赴任し、大分大学経済学部教授等を務め、2020年に退職。著書に『地域で暮らせる雇用』(旬報社, 2021年), 『現代日本の社会政策』(ミネルヴァ書房, 2007年, 共編著), 『地方に生きる若者たち』(旬報社, 2017年, 共編著) など。

小山敬晴(こやま・たかはる) 第5章

大分大学経済学部准教授。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士(法学)。2017年に大分大学経済学部へ赴任し、現在に至る。論文に「ワーカーズ・コレクティブの法律問題」島田陽一先生古稀記念論集『働く社会の変容と生活保障の法』(旬報社, 2023年), 「「組合に入る意味はあるか」という労働者の問いが投げかける意味とは」(『法律時報』95巻8号, 2023年) など。

三好禎之(みよし・よしゆき) 第6章

大分大学福祉健康科学部准教授。日本福祉大学大学院福祉社会開発研究科社会福祉学専攻博士課程修了。博士(社会福祉学)。名古屋経営短期大学を経て、2019年に大分大学大学院福祉社会科学部研究科へ赴任。2020年大分大学福祉健康科学部へ異動、現在に至る。著書に『初めての社会福祉論』(法律文化社, 2015年, 共著〔編者〕), 『新・初めての社会保障論〔第3版〕』(法律文化社, 2021年, 共著) など。

*石井まこと(いしい・まこと) 第7章, 第8章, 結

大分大学経済学部教授。九州大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。修士(経済学)。財団法人労働科学研究所第三部研究員を経て、1998年に大分大学経済学部へ赴任し、現在に至る。著書に『地方に生きる若者たち』(旬報社, 2017年, 共著), 『水俣に生きた労働者』(明石書店, 2021年, 共著) など。熊本学園大学水俣学研究センター客員研究員。大原記念労働科学研究所協力研究員。